

<第 11 回 JEC 検討委員会全体会合資料> (2012 年 11 月 30 日)

**JEC 検討委員会の調査研究の進め方について (継続審議)**

2012 年 11 月 30 日  
JEC 検討委員会(寺西メモ)

今後の調査研究の体制とその進め方について：

- (1) 当該調査研究推進チームの責任者を寺西が務め、全体を統括する。
- (2) 当該調査研究推進チームの事務局を山下・尾崎にお願いする。
- (3) 当該調査研究推進チームの活動は、農中総研のメンバーとも協働して進め、協働の具体的なあり方については、適宜、岡山氏・石田氏・寺林氏と協議を行う。
- (4) JEC 検討委員会の全体会合と並行して、当面、次の 3 つの検討部会(WG)を立ち上げ、全体で情報を共有しつつ、相互に連携を図りながら、それぞれの WG 単位での具体的な調査研究活動を進め、全体会合等で、それらの成果を集約していく。

①<原発被害補償検討部会> (WG 1)：

コアメンバー：◎○除本、土井、堀畑、村山、根本、+希望メンバー等

②<復興行財政検討部会> (WG 2)：

コアメンバー：◎井上(博)、○寺西、関、磯野、+希望メンバー等

\*宮入先生、遠藤先生には、アドバイザーをお願いする

③<被災地域再生検討部会> (WG 3) (仮称)：

コアメンバー：◎長谷川、○尾崎、佐無田、山下、+希望メンバー等

注 1：◎印>部会責任者、○印>部会事務局をお願いする。

注 2：各検討部会 (WG) で取り組むべき調査研究の具体的な課題やテーマ等については、JEC 検討委員会全体会合で議論を踏まえ、それを受けて各検討部会 (WG) 毎に今後の調査研究の方針を検討してもらう。

- (5) JEC シニアメンバー等には、適宜、当該調査研究に対する意見・助言をお願いする。
- (6) 新ニッセイ助成研(代表：長谷川)の取り組みとの調整・連携に配慮する。
- (7) 以上の調査研究の活動は JECHP に掲載し、研究成果は、適宜、『環境と公害』(岩波書店)の<特集>「東日本大震災と原発事故」シリーズや農中総研出版物等で公表していく。また、必要に応じて、対外的な声明・意見書・提言等の発表、さらには出版企画等も検討していく。

#### 4. 当面、向こう1年間の大まかなスケジュール案：

\*2012年11月30日（金）（於・農中総研会議室）：

第11回JEC検討委員会全体会合

\*2012年12月15日（土）（於・東京経済大学）：

東経大学学術シンポジウム「原発被災からの故郷の復興を考える」

\*2012年12月17日（月）～22日（土）（於・一橋大学図書館）

飛田晋秀写真展「原発震災で失われた故郷を撮る」

\*2012年1月25日（金）または18日（金）（於・農中総研会議室）：

第12回JEC検討委員会全体会合

\*2013年2月2日（土）（於・一橋大学）：

ニッセイ助成研究（代表：岡本）公開WS

\*2013年3月中旬または下旬：

第13回JEC検討委員会全体会合

\*2013年4月：JEC委託調査研究の2012年度「報告書」＆「会計報告」の作成・提出

\*2013年5月中旬または下旬頃：

第14回JEC検討委員会全体会合＞公開シンポとしての開催案？

\*2013年6月中旬または下旬頃：

第15回JEC検討委員会全体会合＞公開シンポとしての開催案？

\*2013年7月下旬頃：

第16回JEC検討委員会全体会合

\*2013年8月31日（土）～9月1日（日）：

第30回JEC宮城大会の開催（於・南三陸町ホテル観洋）

(>上記の日程と並行して、各部会単位の研究会、全体または各WG単位等で、適宜、現地視察・ヒヤリング調査等を実施し、また、それらの情報を共有していく。)

~~~~~

(参考)

この間、JEC関係者の取り組みや研究の動向等で、今回の委託調査研究に関連するものとして、以下のようなものが挙げられる。

- ①除本らによる原発被害補償の実態調査
- ②山下・大島ほかによる再生可能エネルギー政策に関する調査研究
- ③羽山による野生動物の放射能汚染に関するモニタリング調査
- ④寺西・石田によるチェルノブイリ調査団関係の人脈での被災現地調査（ふくしま森林組合、川内村等）
- ⑤片岡ら東経大グループによる被災現地調査（12月15日：東経大シンポジウム）
- ⑤長谷川代表の新ニッセイ助成総合研究（被災コミュニティの再生）、など。

>上記との連携を図っていく。

(以上)